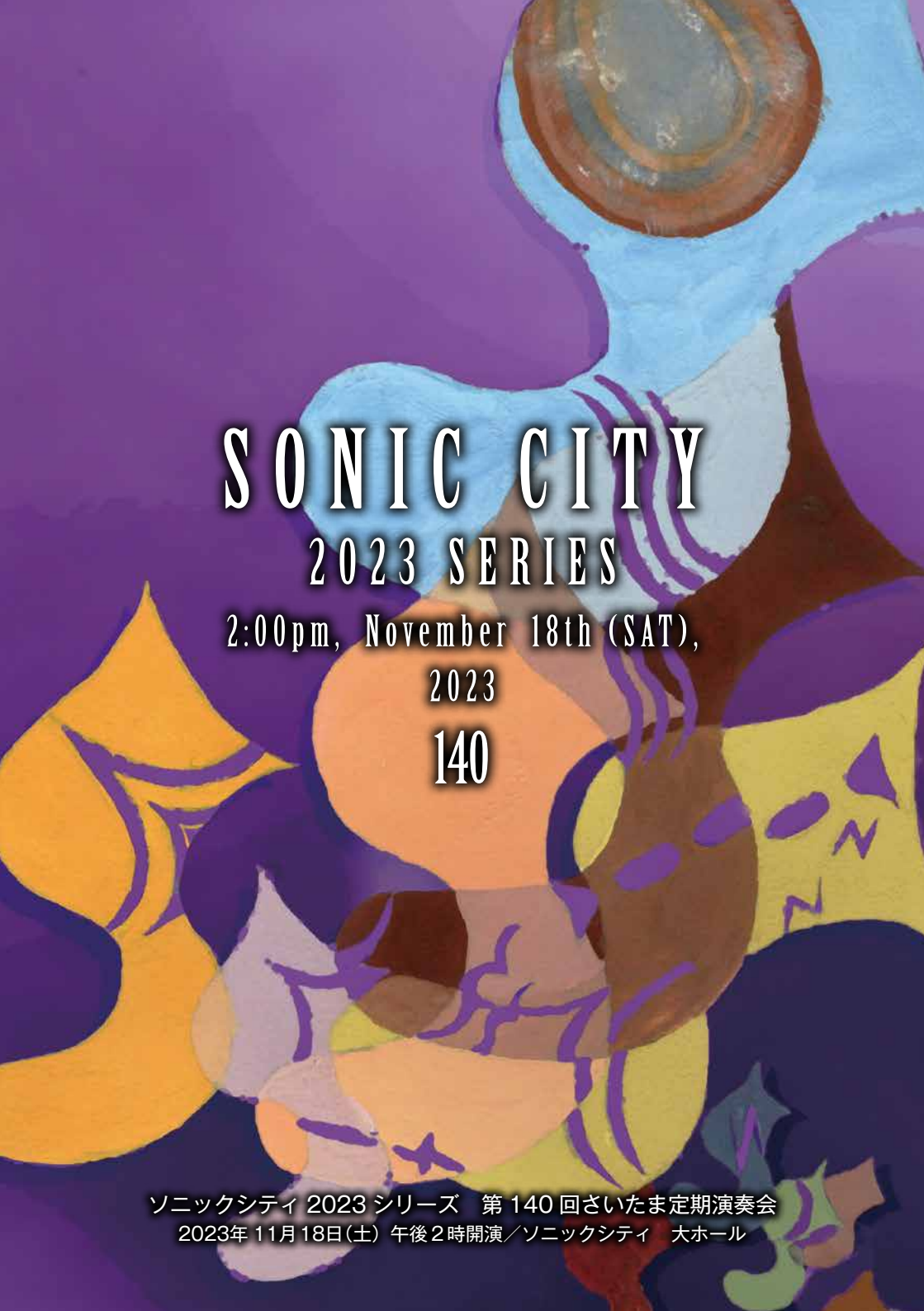




SONIC CITY

2023 SERIES

2:00pm, November 18th (SAT),
2023

140

ソニックシティ 2023 シリーズ 第 140 回さいたま定期演奏会
2023年 11月18日(土) 午後2時開演／ソニックシティ 大ホール

第140回さいたま定期演奏会 日本フィルハーモニー交響楽団

ドヴォルジャーク

チェロ協奏曲 短調 op.104 B.191 (約40分)

Antonín DVOŘÁK: Concerto for Violoncello and Orchestra in B-minor, op.104, B.191

～休憩(15分)～

ドヴォルジャーク

交響曲第9番《新世界より》 短調 op.95 B.178 (約40分)

Antonín DVOŘÁK: Symphony No.9 "From the New World" in E-minor, op.95, B.178

指揮: 西本智実

Conductor: NISHIMOTO Tomomi

チェロ: 堤 剛

Violoncello: TSUTSUMI Tsuyoshi

コンサートマスター: 田野倉雅秋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ: 菊地知也 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KIKUCHI Tomoya, JPO Solo Violoncello

主催

公益財団法人埼玉県産業文化センター／さいたま市

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援

埼玉県／埼玉県教育委員会

さいたま市教育委員会／埼玉県吹奏楽連盟

協賛

株式会社 武蔵野銀行



特別協力

盆栽 清香園



この事業は「さいたま国際芸術祭 2023 市政プロジェクト」です。

表紙作品提供

埼玉県立新座総合技術高等学校 デザイン専攻科 小山田 美優

作品名「音の響き」

作者コメント「コンサートで使われる一つ一つの楽器に注目し、その音のイメージを色や形で表現しました。」

【アンケートのお願い】 今後のソニックシティ主催公演の参考のため、アンケートへの協力をお願いいたします。アンケートにお答えいただきました方の中から抽選で3名様に本日の出演者・西本智実氏、堤剛氏のサイン色紙をお送りいたします。以下のQRより、スマートフォン・タブレットからお答えください。(所要時間約5分)



▶公演終了時、カーテンコールの写真撮影が可能になりました。撮影はスマートフォン・携帯電話のみ、自席にご着席のまま行い、動画の撮影はご遠慮ください。是非、コンサートの感動を多くの方と分かち合ってくださいと存じます。(SNS等への投稿の際は、#ソニックシティの追加をお願いします)



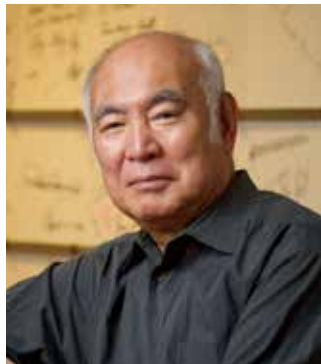
指揮：西本智実

世界各国を代表するオーケストラ・名門国立歌劇場・国際音楽祭より招聘。ハーバード大学ケネディスクール“エグゼクティブ・エデュケーション”修了。ダボス会議(WEF)「2030年イニシアティブ」に取り組むヤンググローバルリーダー、「ムーンショット目標9サブプロジェクトマネージャー兼Principal Investigator」、大阪音楽大学客員教授、ビューティー&ウェルネス専門職大学客員教授、広州大劇院名誉芸術顧問、大阪国際文化大使ほか。

芸術監督としての舞台演出・指揮『泉涌寺音舞台』は【ニューヨークUS国際映像祭 TVパフォーミングアーツ部門銀賞】【ワールドメディアフェスティバル ドキュメンタリー芸術番組部門銀賞】受賞。

Fondazione pro Musica e Arte Sacra「名誉賞」、内閣官房国家戦略室「国家戦略担当大臣サンクスレター」など受賞多数。

2015年・2016年G7サミットでは海外向け日本国テレビCMに起用。日本を代表する芸術家として、ドキュメンタリー番組がCNNインターナショナル、ZDF、独仏共同テレビArteなどで放送。



チェロ：堤 剛

名実ともに日本を代表するチェリスト。桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校音楽科を通じ齋藤秀雄に師事。1961年アメリカ・インディアナ大学に留学、ヤーノシュ・シュタルケルに師事。1963年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位入賞。

これまでに鳥井音楽賞(現サントリー音楽賞)、ウジェーヌ・イザイ・メダル(ベルギー)、モービル音楽賞、N響有馬賞、ウィーン市功労名誉金賞、毎日芸術賞(音楽部門)、文化庁創立五十周年記念表彰など多数受賞、表彰されている。

2009年秋の紫綬褒章を受章。2013年、文化功労者に選出。2020年秋にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団日本公演においてソリストを務め、大反響を呼んだ。

カナダ・西オンタリオ大学准教授、アメリカ・イリノイ大学教授、インディアナ大学教授を経て、現在桐朋学園大学特命教授(元学長2004~2013年)、韓国国立芸術大学客員教授。2007年よりサントリーホール館長。日本藝術院会員。

2022-2023年シーズンには80歳記念公演を行うなど、精力的に演奏活動を行っている。

郷 ～失われた故郷 燃え上がる郷愁～

ドヴォルジャーク チェロ協奏曲 短調 op.104 B.191

現在でこそ「チェコの音楽家」と言われているドヴォルジャーク（1841-1904）。だが「チェコ」とは当時、チェコ語が話されている地域という意味合いであり、その中心地はチェコの西部に位置するボヘミアだった。しかも複雑なことに、当時のボヘミアは、オーストリアを本拠地とするドイツ系貴族のハプスブルク家に支配されていた。

ドヴォルジャーク自身、ボヘミアで生まれ育ち、その中心都市であるプラハを本拠地として音楽的な経験を積んでゆく。しかもプラハにはハプスブルク家の支配もあって、ドイツの文化とチェコの文化が絶妙な形で共存しており、彼もその影響を大きく受けていた。ただし当時のボヘミアでは、チェコ語を第一言語とする人々＝チェコ人による民族独立を果たそうとする動きが強まっており、それがドイツ系住民との軋轢も生みつつあった。

そうした状況の下、ドヴォルジャーク自身、オーストリア…特にその都のウィーン…と密接なつながりを持つ一方で、当のウィーンでは、時に「オーストリアに齒向かうチェコ人」と白眼視されてゆく。そんな最中の1892年、ドヴォルジャークは渡米した。まだ新興国だったアメリカはニューヨークの音楽院院長職を打診され、迷った挙句にそれを引き受けたのだった。

そのアメリカ滞在中の1894年から95年にかけて書かれたのが、『チェロ協奏曲』。当時のドヴォルジャークは重度のホームシックにかかっており、ついにはボヘミアへ最終的に引き上げるほどの事態になった。さらに義理の姉…ドヴォルジャークは若き日に、彼女に想いを寄せていたこともある…が重篤に陥り、彼の帰国直後に亡くなってしまうという出来事も重なった。

このように考えると、よく分かるだろう。第1楽章の第2主題のメロディが、なぜそこまでやるせないのか。安らぎに満ちているはずの第2楽章の中間部に、なぜ突然ほの暗いテーマが現れるのか。（なおこのテーマは、義理の姉のために若き日のドヴォルジャークが書いた歌曲『一人にさせて』に基づいている。）果せるかな、義姉の死後、ドヴォルジャークは第3楽章の最終部分を大幅に拡大した。そして第1楽章が回想され、続いて件の歌曲の旋律が再び現れるような大改訂をおこなった。

ドヴォルジャーク 交響曲第9番《新世界より》木短調 op.95 B.178

アメリカに渡ったドヴォルジャークは、最終的にホームシックにかかったものの、逆に彼の地に滞在することで、それまで知らなかった新たな音楽に次々と出会う。しかもその一方で、新大陸からはるか彼方に仰ぎ見る故郷は、オーストリアの支配の下から脱しようとする民族運動の中で、チェコ系とドイツ系の対立が渦巻いている。

このような葛藤の狭間で1893年に完成されたのが、交響曲第9番『新世界より』。アメリカという新世界で得た未体験の音楽文化を下敷きにしながらも、懐かしいヨーロッパ、ひいてはボヘミアに寄せ続けた、彼の痛切な思いの結晶となっている。何よりもタイトルが『新世界』ではなく、『新世界より』であるのが、その証拠に他ならない。

つまり、ドヴォルジャークがこの作品に込めたメッセージは、単にアメリカ音楽との新鮮な出会いを嬉々として取り入れました、というようなものではなかった。むしろそうした経験を踏まえつつ、彼のルーツであるヨーロッパ…その1つの表れが「交響曲」というフォーマットである…への、憂いに満ちた眼差しだった。

郷愁に溢れた第2楽章の有名なテーマをはじめ、随所に幻のように現れる儚く幸せな楽想。そして第4楽章では、強奏のかわりに、長く引き伸ばされた和音が静かに消えてゆくという異例の終結部。それは、ボヘミアというヨーロッパの周辺部と、アメリカという世界の周辺部の文化を織り交ぜつつ、音楽を通じて旧い世界に新たな風穴を開ける動きでもあったろう。果せるかな、帰国後のドヴォルジャークは、殊オーケストラ作品では交響詩という新たなジャンルへと踏み出してゆくのである。

音楽と植物 その⑤

オーケストラと盆栽という、世界でも類を見ないコラボレーションがおこなわれている「さいたま定期演奏会」。2023 / 24 年のシーズンでは、音楽と植物をテーマとしたコラムをお楽しみください！

菩提樹、ドヴォルジャーク、文化の融合



セイヨウボダイジュの下で作曲するシューベルトの想像図
1920年頃の絵ハガキ

「菩提樹」ときくと、シューベルトが作曲した有名な歌曲を思い出される方も多いだろう。じっさいシューベルトが生まれ育ったウィーンの郊外へゆくと、この作品が誕生するきっかけを彼に与えたといわれる菩提樹が、今なお存在するほど。

もちろん「菩提樹」といっても、西洋と東洋では種類が異なる。シューベルトの歌曲のテーマとなったのは「セイヨウボダイジュ」といい、シナノキの一種であるとのこと。それに対して釈迦がその下で悟りを得たと言われる菩提樹は、「インドボダイジュ」である。いずれにしても「セイヨウボダイジュ」はその名の通り、ヨーロッパの中央域にひろく分布する植物に他ならない。

この「セイヨウボダイジュ」を国花とする国がある。チェコ共和国だ。そもそも「セイヨウボダイジュ」は自由を象徴する木であり、それゆえ長年にわたってオーストリアの支配下にあった末、20世紀初頭に独立を果たしたチェコに相応しい花と見なされているのだろう。（そうでなくてもチェ

コはその後、ナチス・ドイツに占領されたり、第二次世界大戦後はソ連を本部とする共産党の独裁下に長らく置かれ続けたりした。）

ただし、もちろん「セイヨウボダイジュ」はチェコの独占物ではない。シューベルトにゆかりのウィーン／オーストリアでも、極めて親しまれた存在である。そう考えると、ドヴォルジャークに関しても、彼を単に「チェコの作曲家」と捉えてしまうこと自体に無理があるのではないか。

曲目解説にも書いたように、ドヴォルジャークはウィーン／オーストリアとも深い縁があった。この街を終の棲家とし、「ドイツ音楽」の象徴的存在と見なされていたブラームスと親交を深めた。シューベルトの作品からもきわめて大きな影響を受け、それをみずからの作曲活動に反映させた。

このように、地続きのヨーロッパでは様々な文化が融合し、さらにそこから独自の文化が育ってきた。「国」や「民族」で区切ってしまうことで、時に大事な要素が見落とされてしまうのかもしれない。

第 140 回さいたま定期演奏会に寄せて

この度は第 140 回さいたま定期演奏会の開催を心よりお慶び申し上げます。

今回、ステージ左側には樹齢約 150 年の五葉松（ゴヨウマツ）を展示させて頂きました。本作は模様木という、幹を左右にうねらせながら仕立ててゆく、盆栽においては王道ともいえる樹形でございます。年輪を重ねた幹の太さや、雨風に打たれ風化した幹肌の荒々しさが、この古木の生きてきた時間の永さを想わせます。

右側には、こちらも模様木のアカメソロを展示させて頂きました。和名では赤四手（アカシデ）と呼ばれ、垂れ下がる赤い花が注連縄などに垂らす紙垂（シデ）に似ているところから、このように命名されたと言われています。樹齢は 180 年にも上り、木全体の赤みを帯びた美しい姿や、大地を掴むような力強い根張りが見所でございます。

オーケストラと盆栽の調和と豊かさを堪能いただけますと幸甚に存じます。

盆栽清香園 山田寅幸





清香園 history

江戸末期、庶民の文化としての園芸が花開いた時代、初代庄之助が現在の台東区根岸のあたりに創業いたしました。

清香園の屋号の由来は、梅の盆栽を多く手がけていたことから「清く香る園」といたしました。

二代目初五郎は、落鉢で竹の盆栽を作ることを得意とし、三代目釜次郎は石付き盆栽を得意としました。この釜次郎の代で太平洋戦争の戦災を逃れて大宮の盆栽村に移住。現在は、四代目の登美男が園主で、盆栽種全般を扱っております。さいたま市北区の盆栽町（通称盆栽村）には毎日、海外からのお客様が訪れています。

お客様に一番身近な「窓口」としての 専門店を目指して

盆栽園という枠組みに捉われず、
お客様に寄り添う専門店を実現していきます。





日本フィルハーモニー交響楽団
第九演奏会

2023 **12.15** FRI
18:20 開場 19:00 開演

指揮：広上淳一〔フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）〕
合唱：埼玉第九合唱団 曲目：ケルビーニ：歌劇「アナクレオン」序曲
ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱」




ソプラノ 竹下みづ穂
メゾ・ソプラノ 但馬由香




テノール 工藤和真
バリトン 池内誓

©Masaaki Tomitori



日本フィルハーモニー交響楽団 第141回さいたま定期演奏会

2024 **1.13** SAT
13:20 開場 14:00 開演

指揮：川瀬賢太郎 ヴァイオリン：岡本誠司

曲目：チャイコフスキー／《エフゲニー・オネーギン》ボロネーズ、ヴァイオリン協奏曲
J. シュトラウスⅡ世／ホルカ《ハンガリー万歳》、ワルツ《南国のパラ》、オペレッタ《こうもり》序曲
ブラームス／ハンガリー舞曲第5番 レスビーギ／リュートのための古風な舞曲とアリアより「シチリアーナ」

©Yoshinori Kurosawa



©Yuji Ueno



日本フィルハーモニー交響楽団
第142回さいたま定期演奏会

2024 **3.16** SAT
13:20 開場 14:00 開演

指揮：角田鋼亮 バレエ：牧阿佐美バレエ団

曲目：チャイコフスキー／バレエ「白鳥の湖」
ソニックシティ特別版

©Hikaru Hoshi



© 鹿摩隆司

会場：ソニックシティ大ホール

■ チケット価格（単独券）

S：5,500円 A：4,500円 B：3,500円 Y's：2,000円（2024 1.13）

S：7,000円 A：5,500円 B：4,000円 Y's：2,000円（12.15/2024 3.16）

ホールメンバーズ、チョイス券など、各種割引あり。

～チケット取扱い～

ソニックシティネット予約 <https://www.sonic-city.or.jp/>

*ネット予約のご利用には、初めに利用登録が必要です。

ソニックシティホール 048-647-7722（平日）



SONIC CITY SERIES 2024

Japan
Philharmonic
Orchestra
Concert

vol.143-148

SONIC CITY



日本フィルハーモニー交響楽団さいたま定期演奏会2024

開催場所: ソニックシティ大ホール

- 第143回 | 5月17日◎19時開演 | 指揮: 井上道義 / チェロ: 佐藤晴真
■第144回 | 7月6日◎14時開演 | 指揮: 鈴木優人 / サクソフォン: 上野耕平
■第145回 | 9月13日◎19時開演 | 指揮: 原田慶太楼 / ヴァイオリン: 辻彩奈
■第146回 | 11月9日◎14時開演 | 指揮: 小林研一郎 / ピアノ: 小山実稚恵
■第九演奏会2024 | 12月13日◎19時開演 | 指揮: 下野竜也 / ソプラノ: 富平安希子
アルト: 小泉詠子 / テノール: 永賀修平 / バリトン: 宮本益光 / 合唱: 埼玉第九合唱団
■第147回 | 1月11日◎14時開演 | 指揮: 沼尻竜典 / ヴァイオリン: 三浦文彰
■第148回 (バレエ公演) | 3月15日◎14時開演 | 指揮: 梅田俊明 / バレエ: 牧阿佐美バレエ団

チケット詳細はこちら▶





西武学園文理中学・高校



上尾南高校



坂戸高校



朝霞西高校



越谷北高校



大宮商業高校



越ヶ谷高校



浦和商業高校



久喜商業高校



伊奈学園総合高校

Sonic Dance Stage 2024

越ヶ谷高校女子ダンス部
伊奈学園総合高校ダンス同好会花草
浦和商業高校ダンス部
越谷北高校応援部 Brilliant
栄北高校ダンス部
川口市立高校ダンス部
久喜工業高校ダンス同好会 Technis
坂戸高校ダンス部 FLAP
朝霞南高校ダンス部
上尾南高校ダンス部
東武東上線高校ダンス部
大宮商業高校ダンス部
ヒューマンキャンパスのそみ高校
杉戸高校ダンス部 Departure
西武学園文理中学・高校ダンス部

2024年

1月20日(土) 14:00開演

@ソニックシティ大ホール

【会員発売】

10月19日(木)

【一般発売】

10月26日(木)

全席自由 (Ys:19歳以下)

一般 3,000円

Ys 2,000円

【主催】(公財)埼玉県産業文化センター

【後援】埼玉県、埼玉県教育委員会、さいたま市、さいたま市教育委員会

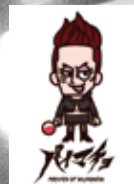
【協力】(株)アルファ

SONIC CITY

ソニックダンスステージとは
埼玉の高校ダンス部が
生演奏でパフォーマンスをする
ダンスイベント

【MC】

パイレーツオブマジョビアン



【Live Music】

Music Salon 音響
～おとしずく～



【Guest】

Saitama
Old-School
DANCE CLUB



Sonic
Dance
Stage

日本フィルハーモニー交響楽団 カーチュン・ウォン 2024 年 1 月演奏会



©Angie Kremer

■ 第 394 回横浜定期演奏会

2024 年 1 月 20 日 (土) 17:00

横浜みなとみらいホール

■ 第 403 回名曲コンサート

2024 年 1 月 21 日 (日) 14:00

サントリーホール

ピアノ：上原彩子

伊福部昭：舞踊曲《サロメ》より

「7つのヴェールの踊り」

ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲

ベルリオーズ：幻想交響曲

S¥8,000 A¥6,500 B¥6,000 C¥5,000

P¥4,000 (1/20 完売) Gs (65 歳以上)

¥4,000 (1/21 のみ) Ys (25 歳以下) ¥1,500

■ 第 757 回東京定期演奏会

2024 年 1 月 26 日 (金) 19:00

27 日 (土) 14:00

サントリーホール

ピアノ：児玉麻里*

ピアノ：児玉桃*

チナリー・ウン：グランド・スパイラル

コリン・マクフィー：タブー・タブーアン*

プーランク：2 台のピアノのための協奏曲*

ドビュッシー：交響詩《海》

S¥8,000 A¥6,500 B¥6,000 C 完売 P¥4,000

Ys (25 歳以下) ¥1,500

お問い合わせ 日本フィル・サービスセンター TEL: 03-5378-5911 (平日 10 時 -17 時)

お申込み e チケット <https://eticket.japanphil.or.jp>

More For You

もっと、街・暮らし・笑顔のために



武蔵野銀行